

目次

はじめに 3

第一章 食文化

不思議な鮎菓子、岐阜名産	16
激戦、喫茶店のモーニングサービス	17
餅の形、東西で違い	18
鰻の背開き、腹開き	19
蛤は大垣名物？	20
赤味噌は極めてマイナーな味噌	21
おときの味噌汁	22
郡上味噌の麴は大麦	23
みそぎと、みそぎ団子	24
独特の味、鮎のなれ鮓	25
鶏ちゃんのルーツを探る	26

第二章 くらしと産業

国語辞典に見当たらない岐阜の「阜」	30
「B紙」の可哀想な共通語名	31
岐阜の方言「かしわ」、九州でも	32
「わっち」は共通語だった	33
盛大な嫁入りの菓子まき	34
罪にならない？ 花泥棒	35
富有柿、全国で有名に	36
長良のブドウは甲州がルーツ	37
美濃の茶は、江戸期から有名	38
レンゲ種子、農家の収入源	39
春日の薬草売り、峠越え	40
富山の薬売りは、代金後払い	41
山で「まつごがり」	42
素朴な土雛を飾る	43

美濃和紙発祥の地は、垂井	44
お蚕さんと製糸工場	45
捕鳥供養塔	46
瓦窯と関の刀鍛冶	47
羽振りが良かった筏乗り	48
筏師は鴨緑江へ	49
風物詩、餌飼は重労働だった	50
鵜飼見るなら納涼台！	51
鵜飼の鵜、どこで捕獲？	52
「嫁呼び」	53
消えた「貸間あり」 ^ま	54
「お日待ち」Ⅱ町内会総会？	55
葬式が土葬だったころ	56
自宅で葬式、地域ぐるみ	57
いまどきの葬式事情	58
生前葬と各務支考	59
戦後、長良川の花火に酔う	60
花火大会と山下清	61

「金津園」特殊飲食街に	62
聖火リレー	63
県域ラジオ放送開局五〇年	64
久々野に月見の地名	65
淡墨桜と薄墨桜	66
城山公園と桜野公園の桜	67

第三章 学校と学び

学制発布時の学校名	70
岐阜の図書館物語	71
戦前の修学旅行は、海外旅行気分	72
桂川の蜚、皇室に献上	73
名古屋からの学童疎開	74
「書生」と奨学金給付	75
新制中学校の誕生	76
修学旅行専用列車「こまどり号」	77
忘れられない織姫たち	78

第四章 祭り・祈り・伝承

一宮、二宮、三宮	80
斎藤氏と天満神社	81
伊勢神宮、秋葉参りは「代参」で	82
生きた神馬が絵馬に	83
逆立ちする狛犬	84
日吉神社に狛犬寄進	85
神宮寺と守護神	86
明治の氏子	87
疫病防ぐ「蘇民将来」	88
安倍晴明、伝承の地	89
平将門ゆかりの地	90
「鬼門除け」の風習	91
街中の鬼門除け	92
地域を見守る小さな社	93
岐阜城下の「守護四仏」	94
吉原遊女と梵鐘	95
円空仏と木曾松	96

第五章 地理・地名

岐阜は関東？ 関西？	110
岐阜は東海ではない!?	111
道州制と岐阜	112
岐阜県を区分すると	113

消えてしまった自治体名	114
市町村の「離婚」って？	115
美濃と関はライバル	116
地名変更で活性化狙う	117
伊吹山、語源は伊福？	118
折れ曲がる街道と条里制	119
羽栗郡と葉栗郡	120
寂しい「新田」地名の消滅	121
岐阜にも多い方角地名	122
水車小屋の地図記号	123
低地にもある分水嶺	124
川が玄関口、湊町	125
苦難の歴史をくぐりぬけた各務用水	126
自然豊かな清水川に	127
水路は暗渠に	128
「うだつ」は地域の財産	129
「にわか銀座」の出現	130
「焼肉街道」とは	131

第六章 街道と旅・交通

街道起点の象徴、中橋	134
高山藩金森氏時代の里程標	135
前田慶次と竹中重門の旅	136
九里半街道と濃州三湊	137
石仏、道中の安全祈願	138
道標、昔の場所にこそ	139
お伊勢さんと道標	140
口留番所は暇だった？	141
抜け道があった飛騨の関所	142
広重の「籠の渡し」はどこ？	143
伏見の女郎塚	144
病人は無料のリレーで国元へ	145
灯台が見守る川湊	146
象さん、木曾三川を渡る	147
信州に運ばれた「飛騨ブリ」	148
嫌われていた御茶壺道中	149
御成街道で岐阜町へ	150

御鮎（鮎鮎）街道は江戸まで	151
美濃塩と越中塩の競合区	152
塩は越前から奥美濃へ	153
J R 岐阜駅前にある谷汲山の道標	154
鉄道池	155
鮎は、特急列車で東京へ出荷	156
高山本線、待望の開通	157
私鉄と高山本線つなぐ、特急「北アルプス」	158

第七章 歴史

養老改元の裏に数々の伝承	160
戦国三国司	161
秀吉と一夜城	162
四度の、天下分け目の戦い	163
城の石垣の石はどこから？	164
「天下の姫御前」加納の亀姫	165
朝鮮通信使との交流	166
二つの「尉殿堤」	167

美濃は尾張藩が支配!?	168
遠国の大名領が美濃に	169
貴族から大名の家臣へ	170
郡代は下級幕臣だった	171
転封は借金残して	172
加納藩の藩札は傘札	173

あとがき

175